

牧草園藝



雪印種苗株式會社

ヨーロッパの草地農業 (七)

九州大学農学部
農学博士 江原 薫

スイス

身辺多事のため休講をつづけ申訳ありません。

十一月四日雨の中をドイツのシュツガルトから空路スイスのチューリッヒに向う。

かねて書面で知っていたこの教室のコペルト教授を尋ねる。同教授からスイス農業の大略を聞く。ここでは飼料作物の研究、特に生態学的研究が多いが省略する。

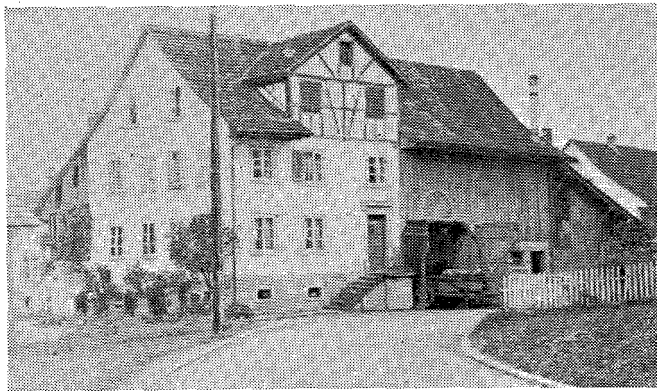
午後はチューリッヒの郊外にある国立農業試験場を見学したが、ここでは飼料作物(亦クローバー、イタリアン・ライグラス、オーチャード・グラス、プレニアル・ライグラス、チモシー、メドウ・フェスク、アルファルファ等)の品種試験、混播試験、あるいは耐病性の品種改良などを行っていた。

スイスではチューリッヒを中心に、バゼル、ベルン、インターラーケン、アルプス、ルーツン等を一廻りして、スイス農業の概観、特に草地農業について若干の知識を得たので、次に簡単に紹介したいと思う。

スイスの地勢と農業地帯

よく知られている通り、スイスは山嶽地

帯で、北緯四五度四九分から四七度四九分の間にある。この国で一番高いところはアルプスの一つの山の頂上で海拔約四、六三



スイスの農家 (向つて右側が畜舎)

二、最も低いところは一、九三呎である。従つて農業は高低の差による温度の変化によつて複雑である。耕地面積は約一、一六・八万畝で、全国土の約二割七分位にあた

る。

農業地帯は次の通り大別される。

- (1) 柑橘類の栽培出来る亜熱帯
- (2) トウモロコシ地帯
- (3) 小麦地帯
- (4) エンバク及び牧草地帯(ジュラ及びアルプス山脈の山麓地方)
- (5) 放牧地帯(ジュラ及びアルプス山脈の高地)

このようにスイスは何も寒いところばかりではない。かなり高温を要する作物も栽培出来る。

スイス農民

一九四一年の統計であるが、スイスの人口は四、二六五、七〇三その中農民は二〇・三%に当る八六六、七二〇である。スイス語というのはなく、人々は一般にドイツ語を最も多く用い、フランス、イタリ語を用いる国民もそれぞれ一割ずつ位いる。スイス農民の農場の大きさは大体次の通りである。

農場の大きさ	農場の数
〇・五以下	二八一五四
〇・五—一	一九七三九
一—三	五二、七〇二
三—五	三六、七六四
五—一〇	五九、〇四四
一〇—三〇	三九、四〇三
三〇以上	二、六七五
合計	二三八、八八一

全体に対する割合
一・八%

牧草と園芸 八月号 目次

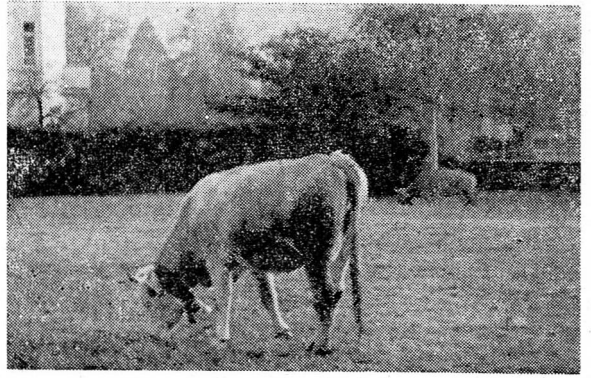
◇表紙写真 涼しい木陰で搾る新鮮なミルク (千葉市黒沢牧場にて)	江原 薫 二
◇ヨーロッパの草地農業 (註)	黒住 久弥 四
◇河川高水敷の保全と利用	上家 富成 六
◇アメリカの草地みてある記	水島 隆 二
◇温暖地における養畜農家の夏作飼料作物栽培 (註)	いとうけいたろう 一六
◇母の優良種と苗の定値	飼料・果樹・蔬菜 一七
◇季節の作業	

三一五分の農家は小農と称され、スイスで最も適正な規模の農家は五一三〇畝の中農である。

小農は家庭工業と結びついている。また都会の近くの農家の娘や、息子は農業外の収入の道を講じている。

ハ 畜産
一九四六年には、スイスの農家の全粗収入のうち、畜産によるもの六六・一%、果樹七・一%、ブドウ六・四%、普通作物二・四%で、スイスの農業は畜産を主体としたものである。

乳牛は淡褐色に白の斑紋のあるシンメンタールが最も多く、一九四六年の統計では七四五、三二頭。この牛は熊本赤牛の改良に用いられたので、わが国でも有名である。特にアルプスの急傾斜地にはシンメンタールが多い。次いで黒褐色のブラウンスイス六五四、四五九、ブラックスポット二五、六一七、ヘレン二八、八七五、雑種一七、八九二である。また馬約一〇万頭、山羊約一九万頭、メン羊約一八万頭、豚約



シンメンタール (スイス)

はこの地方に泊りがけて乾草製造を行う。平坦地に生産される野草は収量は多いが、品質は以上二者に次ぐものである。平坦地の水気の多い地帯に生産される自然草は、品質は劣るといわれている。

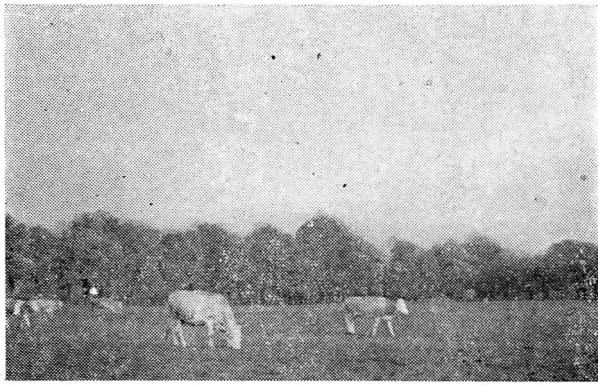
これらの自然草地には、可能なところには、肥料、厩肥などを施している。牛尿を施肥することがある。

自然草地の中には、オーチャード・グラス、ベルベット・グラス、プレニアル・ライグラス、ラフ・ストークド・メドウ・グラス、エロー・オートグラス、トル・オートグラス、プローム、メドウ・フェスク、白クローバー、メドウ・フオックスティール、レッドトップ、レッドフェスク、赤クローバー、ケンタッキイ・ブル

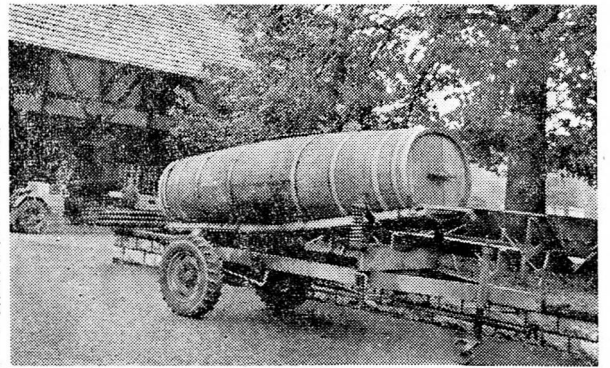
七一万頭である。ガイギイの会社の農場の成績によれば、シンメンタールは平均一年間一頭が生産する乳量は四、三一〇キ、生体量一〇〇キ当五八二キ、脂肪率は三・八一%。ブラウンスイスはそれはそれぞれ四、〇五四キ、六七三キ、三・九三%である。この農場には二〇歳、二五歳、という老齢の乳牛も活躍していた。スイスの農家一般の搾乳年数は七年間位であるが、この農場では平均十四年間搾っている。

二 草地農業

まず自然草から述べよう。容易に近よれない高地に生産される乾草は、品質が最もよく、畜産家はこれを高く評価している。次に日光のよくあたる高い傾斜地に生産される乾草で、これも品質はよい。夏期に



シンメンタールの放牧地 (スイス、インターラーケン)



牛尿の撒布タンク (スイス)

ーグラス等のような牧草類が多く混生している。

自然草地、あるいは人工牧草地に果樹が点在し、独立した果樹園は殆ど見当らぬ。ブドウ園だけは独立しているが、農民の関心も、果樹の庇蔭がどうしたら下草に害を与えないかという点にある。

日本の果樹園の草生栽培のように、果樹の内に牧草があるのでなく、牧草の内に果樹があるわけだ。

牧草は永年牧草地と、輪作に入れられたいわゆるレイ農業に栽培されている。やや急傾斜地は永年牧草地であるが、平坦部は輪作に入れた牧草栽培が多い。

スイスで重要な牧草はオーチャード・グラス、プレニアル・ライグラス、イタリアン・ライグラス、赤クローバー、ルサン等である。その他チモシー、メドウ・フェスク、ベントグラス等も栽培される。

一年生飼料作物では、キクイモ(茎葉を用いる)、青刈トウモロコシ、スーダン・グラス、これに苧科飼料作物の混播、秋蒔大麦、エジプトアン・クローバー、秋蒔ナタネ等がある。

レイ農業では輪作は次のような例が多い、

秋蒔小麦—ビートある
秋蒔小麦—12チタネ
—12ライ麦
—大麥—クローバーと共に蒔く。



果樹園の草生栽培 (スイス)